なんか、あっちから通るバス見たら、ああ、あのバスどこ行くんだろうな、乗ってみたいなぁって思ってた

聞き手＝知念真由美（五七）　語り手＝母（八三）

―母ちゃんの小さい頃からこれまで、どんな生活をしてきたのかを聞かせてほしい。大したことなどしていないと話していたけど、これまでの時代の変化、流れの中でどのように感じていたのか、個人の生活から時代を知ることができると思うので、ざっくばらんでいいので教えてほしい。

えーっと、名護市で生まれたね。小さい頃は苦労したね。最初の子どもで長女だし、どんどん弟や妹が生まれるから長女への負担がかかる。いろんなとこで生活の面でも。

ああ、親の立場からしても、いろんなことがあったと思う。

親の手伝いもしないといけないし、学校も行ったんだけど。

家庭が貧しかったのかなぁ。他と比べて、ちょっと劣ってるかなぁとも思いながら。弟や妹の世話をし、食事を作ったり。小学校の低学年から朝早くから起こされて、なんか、いろいろなことをさせられたなぁ。

例えば、豆腐作りとかもした。石臼を回すのが大変だったんだよね。この石臼を一人で回していた。手伝いする人もいないし。小学校の低学年でそれをやるのは本当に大変なことだった。石臼回しの次は一人で豆腐作りをやった。作った豆腐は母親が売りに行った。

あと、豚も養っていたから、豆腐のカスを豚の餌にしてあげていた。また、いろんなことをやったなぁ。

母豚とか子豚とかたくさんいたので、朝と夕方の二回、その豚の餌やりとかさ。それをやるのに、もう。それを毎日続けていた。

また、いろんなことをした。山に行ったりして、まきを集めてきたり。草を刈って干してすぐに使えるようにしたりとか。

いろんな手伝いをさせられた。まあ、家もそんなに裕福じゃなかったんだろうね、うん。

勉強部屋なんかないし、ええっと、その時は学校も教科書なんてなかったなあ。最初はね、先生は本を持ってて、その本の通りに黒板に書く。それをそのまま写していた。勉強はそんな感じでやっていたなぁ。ああ、もう昔は本当にいろんなことがあった。

あぁ、そう、学校は給食なんてないし、お昼時間はおうちに走って帰って、芋を食べて。学校にまた戻るために走っていた。それが日課というか、そんなもんでしたね。

弁当持っていく米もないからね。ごくたまに芋を持って行った時もあった、包んでね。そのことが、一番記憶に残っている。

今でも夢に出てくるな。学校に行ったら、授業が始まってて「ああ、どうしよう」って。そういう夢もいまだに見るんだよね。

で、まあ、ようやく、中学校に上がる。すると、運動場がぬかるむ雨の後、カマスというのがあって、それに海からの砂を入れて担ぐ。一人何回っていうふうに運搬させられて、運動場に持って行ったんだよね。砂を運動場のぬかるんだ所に入れるわけ。それを、一人何回っていうふうに決められていた。

まあ、頭に砂を担いでるんだけど、その頭に砂がジャラジャラ入ってくるし。もう、ほんとに苦労。雨が降るたびにこれが続いたみ

たいな感じですね。

それに学校の教室もススキのかやぶきの長屋で、真ん中から仕切りがされて教室が二つに分かれていた。長椅子と長机があり、そこに四名か五名ぐらい座っている。

そんなふうな学校でしたね。雨が降ると、壁側は囲いがないので雨は入ってくるし。勉強どころじゃなかったのかもしれない。

今考えるとね、今の学生は昔のようには大変ではないし、学業だけでいいからいいなと、とても思う。

昔は部活なんかもなかったしね、もう勉強も本当にできない。午前中は砂担ぎで、午後は少し勉強したというような感じ。

それで、えっと、一応は卒業はするんだけど。まあ、それからというのはまた、家族、家庭の、なんて言うかなあ？　家族のことを考えていた。

親からは、何をしなさいって言われなくても、自分でやることを考えて動いているのが当たり前のことになってしまっているのかもしれない。

うん、言われなくても、雨が降りそうだから、早くまきを集めないといけない。生活ができるように、あれこれやらないと家族が困るっていうような感じで、自分なりに考えてやっていたんだけどね。その後は、どんどん、まあ、辛抱するんだけど。

バス、家の方からバスが通るの見えるんだよね。「バスが通っているなぁ、あのバスどこに行くんだろう」って思ったり、とってもうらやましいっていうのか、どこに行けば、あのバスに乗れるんだろう？　バスに乗れる日もあるかなと思っていた。

バスを見てうらやましくて、乗りたくて、あーいつか乗りたいと思いながら。でも自分は家のことなど考えないといけないと思って、家の手伝いや下のきょうだいたちの世話などいろいろやっていたし、親のことなども考えないといけないと思っていた。

今でもたまに学校のことを思い出す。「もう、学校をこんなに休んでしまった。学校に行ったら、教室も分からなくなっている。移動教室だけど、ここだったかなあ」って。分からなくなっている。「今からどこの教室に行けばいいかなぁ、時間割も分からなくなっているよー」。そんなふうに学校の夢をいまだに見る。

なんか、学校を卒業しても、楽しいことって、そんなになかったな～。

戦争は、そんなにつらい思いはしていないと思う。激しい戦争に遭ったとか、そんなことはなかったんだけど。

他の人の話を聞くと「川があって、そこに死んだ人間がたくさん転がってて、その下で水を、生きるために水を飲んだ」とか。

避難している壕から追い出されて、同じ所から追い出された家族の赤ちゃんが泣くもんだから、親がその子どもを埋めたのを見たらしいです。

私なんかは、そこまでつらい思いはしてないんですけど、生きてる人を埋めるなんて大変ですよね。それも見てきたって。

食べるのもなくて海の「もーくさー」を探して、それを山原（やんばる）から担いできたりしたことも聞いています。

でも、逃げたところで捕まり、捕虜になったところは何にもないところで、野原の草の新芽を採って食べて野菜の代わりにしたり、柔らかい草を摘んで食べたり。

また、米軍からの流れ物が波に乗って寄って来ることがあり、それを探してもいた。同じようにしている人はいっぱいいますね。

それほど食べるものがないから。それを拾って食べた。そんな汚